令和８年度　幼保小連携推進事業「授業と保育の相互参観（協議会）」

第2回協議会だより《南方部》

令和８年１１月４日（水）９:５０～１１:５０

【授業と保育の相互参観】　郡山市香久池保育所

～香久池保育所の保育参観について～
夏にお祭りを体験したことが楽しい思い出となり、「またやりたい」という子どもたちの声から、秋祭りを開くことになりました。「どんなお店にしようかな」「誰がお店屋さんになる？」など、子ども達と話し合いながら、準備を進めてきました。本日は、隣のクラスのお友だちを招待し、「いらっしゃいませ」「これください」など店員さんやお客さんになりきってやり取りを楽しむ姿が見られました。たくさんの参観者がいる中でも、自分たちで考え、準備してきたお店で、お友だちと関わりながらお祭りの雰囲気を存分に楽しんでいました。







【協議会内容】

① 保育参観より

・お祭りという活動を通して、友だちと協力することや、相手を思いやることなど様々な社会性を学んでいると思いました。異年齢交流の中でも年上の子の姿を見て憧れたり、年下の子に優しく接したりと多くの学びや成長が見られました。異なる年齢の友だちと関わる経験が、子どもたちの心の成長につながっていることを感じました。

・子どもの発想やイメージを丁寧に聞き取り、気持ちや思いをしっかりと受け止めながら関わっている姿が見られました。そのような関わりを通して、子どもの主体性や豊かな発想を大切にした、丁寧で温かみのある保育が行われていると感じました。

② 遊びや環境を通して育まれる資質・能力について　就学に向けた幼保と小の情報交換について

・今回のお店屋さんごっこは、子どもたちの遊びや学びが小学校での学習活動や教材にもつながる内容であり、幼児期から児童期への学びの連続性を意識したカリキュラム作りに生かすことができると感じました。また、遊びを通して得られた経験や学びを小学校での学習へとつなげていくことの大切さを改めて感じました。







≪参加者からのアンケート≫

・先生方の子どもたちへの考えさせる声かけや仕掛けが参考になりました。肯定的な声かけをすることで、自主性が育ち、意欲も高まるので、大切だなと思いました。

・保育園から小学校に上がる際の指導の雰囲気のギャップがあり、小学校ではその差を小さくできるよう、励ます指導に力を入れるべきではないかと感じました。

・幼保の先生方は、小学校での小１ギャップを乗り越える取り組みについて詳しく知りたいと感じていることが分かりました。双方の情報共有を密にし、不安を取り除けるようにしたいと感じました。